（社）日本原子力学会　標準委員会　リスク専門部会
第 27 回　外的事象 PRA 分科会
議事次第

日　時：　2022 年 8 月 4 日(木)　13:30～16：30

場　所：　WebEx 会議

配布資料

RK6SC 27-1　　第 26 回外的事象 PRA 分科会議事録(案)
RK6SC 27-2-1　　人事について
RK6SC 27-2-2　　外的事象 PRA 委員名簿　2022/8/4 版
RK6SC 27-3-1　　外部ハザード選定標準の改定作業について (改訂 1)
RK6SC 27-4-1　　原子力発電所に対する地震を起因とした確率論的リスク評価に関する実施基準:202X"で受け付けた意見への対応について(標準委員会コメント対応表)
RK6SC 27-4-2　　地震 PRA 標準 202X 改訂(案)【本文】
RK6SC 27-4-3　　地震 PRA 標準 202X 改訂(案)附属書リスト

議題：

1. 定足数確認，資料確認
2. 前回議事録の確認
3. 人事関連
4. 外部ハザードのリスク評価方法選定標準　改訂
5. 原子力発電所に対する地震を起因とした確率論的リスク評価に関する実施基準:202X"で受け付けた意見への対応について
6. その他、次回日程

出席委員(18 名)：　糸井主査(東大)、桐本幹事(電中研)、安達委員(テプシス)、織田委員(日立 GE)、喜多委員(東電 HD)、国政委員(関電)、栗田委員(東電設計)、小林委員(中部電)、佐藤委員(東芝 ESS)、砂川委員(北海道電)、田中委員(MHI)、中島委員(電中研)、西田委員(JAEA)、橋本委員(電中研)、泥谷委員(NEL)、美原委員(鹿島)、山野委員(JAEA)，吉田委員(大林組)、

欠席委員（1 名）：　内山委員(大成建設)

出席常時参加者(2 名)：高橋(鹿島)、根岸(原電エンジニアリング)

欠席常時参加者(1 名)：倉本(NEL)

参加者:藤岡(日立 GE)、原口(MHI)

(1) 定足数の確認

会議に先立ち，委員 19 名中 18 名が出席しており，定足数を満たしていることが確認された。また、資料確認が行われた。

(2) 前回議事録の確認

桐本幹事から，前回議事録の内容について説明がなされ、承認された。

(3) 人事について

喜多委員の新任が承認され、斎藤委員の退任が報告された。地震 PRA 作業会より、猪股、喜多委員の新任の承認、また益田、斎藤委員の退任、常時参加者の 6 名の登録の報告が有った。

(4) 外的ハザード評価方法選定標準　改定作業について

泥谷委員より、外的ハザード評価方法選定標準の改定について実施体制や方針等の説明が行われた。作業の分担を決定し、改定案、文献の検討を行い、次回分科会以降に議論することとなった。

以下の議論があった。

・規制との議論で出ているものとして、気候変動の影響のようなことをどう考えるのか、論点等を解説などに入れることを検討してもよいのでは。ただしハザードは過去の実績を踏まえながら尤度を見ているところもあるので、標準に入れることは難しいとは思うので、その場合は理由について解説に記載するとよい。

→　分科会でも電力と規制での議論状況をフォローしていく。

・設置許可や保全学会でも外部ハザードの検討した文書が出ている中で、原子力学会の標準はあくまでリスク評価に用いるためのハザードを考えるという位置づけでよいか。

→　その理解でも良いが、この標準は考えるべき外部ハザードは何かという根本的な標準として理解しているので、用途に限らないものとして作成するものと考える。

・重畳・複合事象、原因共有、随伴についての用語の整理について、地震 PRA 作業会の議論によるまとめをフォローしてすすめることとする。

(5) 地震 PRA 標準改定　標準委員会コメント対応結果

地震 PRA 作業会藤岡委員より、標準委員会からのコメント対応についての説明があった。リスク専門部会に報告をすることが了承された。

以下の議論があった。

・以前は階層化の検討をしており、技術レポートへの分冊を検討していたと思うが、附属書の量は現行の実施基準と変わらないものとなると想定しているということか。

→　現在はほぼ変わらない量で検討している。

→　津波 PRA では一般的になっている科学的知見は本体に残したが、事例や参考手法などは技術レポートに分離している。地震でも整理してもいいのではないか。

→　標準はまずこれで発行して、活用 WG で技術レポートを検討しているので、今後は活用 WG を発展させて行く中で分離の検討をすすめることえを考えている。
・附属書の技術レポートへの整理や分離は分科会の方針としても決めているものなので、このまま上がってくるとそのコメントを付けて返すことになると考える。例えば、「附属書 D の国内侵害事例を〇〇として使うことで箇条△△を包括的なものとなる」等の使い方を明確にしなければ附属書として適切ではないものとなる。考慮して検討して頂きたい。
→　スケジュールを崩さないように考慮しつつ、作業会でも議論する。
・コメント 22 の回答について、地震 PRA では重畳については事故シーケンス側で影響として重なり合うことを言っているが、外的ハザード選定標準では入口側でハザードがどう重なり合うかを言っているため見ている軸が違う。このため、標準としては齟齬は来さないものである。

(7) その他、次回日程

次回は 2022/11/8 午後で調整。→　その後リスク専門部会(11/7)のため、10/31PM に変更

以上